

## お米産地調査

## お米の産地に行ってきました。

## 青森県、秋田県



青森の生産者 秋元さん



全農青森の皆様



JAつがるにしきた 生産者の皆様



秋田の生産者 佐藤さんたち

して被害粒、着色粒などを除去しているとのことでした。

本会のお米は安心・安全のため様々な検査を実施しております。放射性物質検査は国が設定した基準値を基にそれぞれ青森県、秋田県が実施し、残留農薬検査、DNA検査、重金属検査(カドミウム)については青森県は全農あおもり、秋田県は秋田県主食集荷商業協同組合において実施しております。

また、本会でも新米供給前には独自に放射性物質検査を実施しております。重金属検査(カドミウム)、DNA検査、残留農薬検査、細菌検査についても、本会のお米をご利用いただいている学校に依頼し、実際に納品されたお米からサンプリングさせていただきます。検査を実施しております。

これからも安心・安全でおいしいお米を供給してまいりますので、ぜひ本会のお米をご利用ください。

本会では毎年稲の刈り取り前に産地調査を行っています。今年度につきましても9月13日に本会取扱物資のつがるロマン並びに、まつしぐらの産地である青森県、14日にあきたこまちの産地である秋田県を訪問してまいりましたので生育状況等をご紹介します。

つがるロマン並びに、まつしぐらの主な産地である青森県津軽地域を管轄しているJAつがるにしきた農協にお話を聞いたところ、今年は刈り取り直前の台風10号の影響が懸念されましたが大きな被害もなく天候も比較的好天に恵まれ、今年度の収穫量は「やや良」となる見込みだとのお話でした。

また、訪問日当日はJAつがるにしきた農協稲垣地区の生産者約30名の会合が近隣の公民館

で開かれていたため、急ぎよ参加させていただき、交流を深めました。生産者の秋元さんは「除草作業と水温管理がお米作りで一番苦労することだ。また、今年は、猛暑日が多かったため、お米の胴割れが懸念されるが適宜水温管理を行ったのでおそろく大丈夫であろう」とお話を聞いていました。JAつがるにしきた農協の小嶋部長は「全国的にも温暖化が進んでいる中で青森県は冷涼で、今でも他の地域と比べて農薬の使用を比較的抑えることができている」とのお話を伺えました。

あきたこまちの生産者を取りまとめている秋田県主食集荷商業協同組合とお話させていただ

いたところ、秋田県ではカメムシ等の影響で被害粒が多かったが台風などの影響はなく収穫量としては「平年並み」とのお話でした。生産者の佐藤さんの作業場を訪問したところ、籾すり作業をしていました。佐藤さんのお話によると、脱穀(穂から実をはずすこと)した籾は水分量が多くそのままでは籾殻をはがすことができないため乾燥させる必要がある。そのため、乾燥機で12~15時間かけて水分量を15%まで落としてから籾すりを行う。その際に、お米の等級の下落等を防ぐため選別機を通